Trinity

キズナエピソード\_大鳥蒼\_02

１２３４５６７８９０１２３４５６７８９０１２３４５６

１２３４５６７８９０１２３４５６７８９０１２３４５６７８９０

------------------------------------------

//とびお自室

//ヴィジュアルノベル形式開始

渋谷で新刊の漫画を買った俺は

ほくほく気分で街を歩いていた。

そんなとき、向こうから歩いて来た

見覚えのある長くて蒼い髪の女性と目が合う。

先日助けてもらった、確か蒼と呼ばれていた女性だ。

//次ページ

一度しか会ったことがなく、知り合いとも言えない彼女。

軽く挨拶を交わす程度だと思い、会釈をする。

しかし彼女は、会釈をするだけではなく

すたすたとこちらに歩み寄って来た。

//暗転

//ヴィジュアルノベル形式終了

//ADV形式開始

//背景:渋谷

[蒼]

「やあ、

とびおくん、だっけ。

また会えるとは思わなかった」

[とびお]

「ああ、俺も」

[蒼]

「今からなにか用事かい？」

[とびお]

「いや、さっき漫画の新刊買って

もう用事も終わって帰るところ」

[蒼]

「そうなのか……。

もし時間があるなら、少しいいかな。

相談があるのだが」

[とびお]

「え、俺に？」

［蒼］

「君が、一番適任なんだ」

［とびお］

「……俺で大丈夫ならかまわないけど……」

［蒼］

「ありがとう！

じゃあそこのカフェで話そう」

//場面転換

//背景:とあるカフェ

[蒼]

「きちんとした自己紹介がまだだったな。

オレは私立武良穂3年、大鳥蒼だ」

［とびお］

「あ、1個年上だったんですね。

俺は都立有羽2年の、量とびおです」

［蒼］

「今までどおりの口調でいいよ。敬語は苦手だ」

[とびお]

「わかりました。いや、わかった。

俺もとびおで構わないよ。

それで、相談って？」

[蒼]

「ああ、実はオレ、

この前助けた後輩から、告白されたんだ……」

[とびお]

「えっ!?

蒼って、女だよな？」

[蒼]

「ああ、男によく間違われることはあるが……

告白されたのは初めてだ」

［とびお］

「女子校とかではたまにあるって聞くけど、

共学の武良穂でもあるんだな……。

相談って返事に困ってるとかか？」

［蒼］

「いや、返事はもうした。

『性別なんて関係ない、蒼先輩が好きなんです』

と真っすぐな目で言われて、断れなくてな……」

［とびお］

「なるほど……。

じゃあ相談って？」

[蒼]

「オレは見た目通り、恋愛に疎いし、経験もないから

付き合うというのが、

どういう事をするのか分からないんだ……」

[蒼]

「だが、一度ＯＫと答えた以上

きちんと相手に責任は果たしたい」

[蒼]

「単刀直入に言おう。

恋人同士の付き合いを理解するために、恋愛について

オレにレクチャーしてくれないか？」

[とびお]

「え……なんだそれ……

俺が？」

[蒼]

「そうだ。いきなりこんなことを頼んでどうかしていると

思われるかもしれないが、頼めるのは君だけなんだ」

［とびお］

「んー……いや、レクチャーも何も、

恋人ならどこか一緒に出かけたりして

デートすりゃいいんじゃないか？」

［蒼］

「一緒に出かけるだけでいいのか？」

［とびお］

「いや、もちろん恋人らしくしないと

デートにはならないんじゃないかな……？」

［蒼］

「……その、恋人らしく、がよくわからないんだ……」

［とびお］

「うーん……言葉で説明するのは難しいな……」

［蒼］

「じゃあ、実際にやってみるしかないだろ！」

［とびお］

「……それを俺とってことか……。

そもそもなんで、1回会っただけの俺となんだ？」

［蒼］

「オレには他に男の知り合いは居ない。

それに、あの時見て見ぬ振りをせずに

助けに入った君なら信用できると思ったんだ」

［とびお］

「……わかったよ、

そこまで言うなら、

真似事でいいならやってやろう」

［蒼］

「そうか！　君なら現状恋人もいなそうだし、

そう言ってくれると思ったよ！」

［とびお］

「ぐっ……失礼だな……

じゃあ、まずは俺たち呼び方を変えよう」

［蒼］

「呼び方？」

［とびお］

「恋人なら君とか呼ばないだろ」

［蒼］

「なるほど……じゃあ、とびお。

オレの事は蒼と呼んでくれ」

［とびお］

「……蒼」

［蒼］

「……これが恋人らしいという事か？」

［とびお］

「ちょっと違う気がする……」

［蒼］

「難しいな……。

やっぱりデートしてみないとわからないんじゃないか？」

［とびお］

「じゃあ、今度の休みにでも、

どこか出かけてみるか」

[蒼]

「そ、そうか！

すまん、ありがとう。

では、早速だが、連絡先を交換しよう」

[とびお]

「おっけー」

[とびお]

蒼とはその日、少し雑談した後に解散した。

最初はの話にはかなり面食らったが、

俺は既に、内心こういう状況を楽しいと感じていた。

//2話END